

我が家の フラワー

21 ハナウメ

ウメは、バラ科サクラ属の落葉高木で、原産地は、中国中部です。日本と中国で多くの品種が育成されています。ハナウメは、果樹用の品種（ミウメ）とは区別されていますが、花を觀賞する場合はこだわる必要はなく、花色と開花の早晩で好みの品種を選びましょう。花だけでなく、枝ぶりや全体の樹形を楽しみ、庭植え、鉢植え、盆栽などで觀賞します。



【管理のポイント】

- ①植 え 付 け：植え付け時期は、11月～3月頃です。日当たりと排水の良い場所に、根鉢よりも大きめの植穴を掘り、化成肥料（窒素、リン酸、加里成分各7～10位）を50～100グラム位と腐葉土などを少々混ぜたものを入れて、植えます。鉢植えは、木の大きさに応じ、6号以上の浅鉢または中深鉢に植えます。
- ②水 や り：植えつけ直後は、十分にかん水します。庭植えは、植えつけ当年は、根元が乾かないように注意します。2年目以降は、干害のでやすいところでは、半月以上、晴天が続くようであれば、かん水します。また、幼木は、乾燥させないように注意します。鉢植えは、用土の表面がほぼ乾いている状態になった時にかん水します。
- ③施 肥：庭植えでは、太く長い徒長枝は花付きが悪いので、木を大きくしたい場合以外は、肥料は控え目にします。鉢植えでは、3月～5月に数回、置き肥するのが一般的です。
- ④整 枝 剪 定：庭木は、12月～3月に混みすぎた枝を間引き、樹形を乱す徒長枝を切り返したり、麻ひもなどで誘引してねかせます。鉢植えは、2月に各枝2～3葉芽を残して切り詰めますが、葉芽の吹きを確認してからの場合は確認後（3月頃までに）早めに剪定します。
- ⑤病虫害防除：3月～11月に、アブラムシ、コスカシバ、ウメケムシ、カイガラムシなどの害虫を適期に防除し、3、4、5、6、9月はクロホシ病、タンソ病などに注意します。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
開花・結実		開 花					花芽分化					開花
管 理		置き場(鉢)	日陰も可			戸 外				日陰も可		
		水やり(鉢)				ふつう						
		肥 料		施肥					施肥			
作 業		植えつけ・植え替え								植えつけ・植え替え		
				整枝・剪定								

ガーデニング

県園芸総合センター

今出来 光志



22 ポインセチア

ポインセチアは、トウダイグサ科のユーフォルビア属に属するメキシコ原産の常緑低木です。寒さが深まると色づく苞の真っ赤な色彩がめでられ、クリスマスの鉢花として楽しまれるようになったのは、19世紀にアメリカを経てヨーロッパに紹介されてからのことです。アメリカ、ドイツ、ノルウェーなどで盛んに新品種が育成され、日本にも紹介されています。



【管理のポイント】

- ①置き場所：冬の間は、室内で観賞・管理します。4月下旬に、霜の心配がなくなったら戸外に出し、日光に十分当てて栽培します。10月下旬になったら室内に取り込み、保温を図ります。生育適温は15～20℃で、寒さに弱く、越冬には、最低8℃が必要です。
- ②植え替え：5月中旬になったら株を鉢から抜き、根鉢を3分の1くらい落として新しい用土で植え替えます。用土は、赤玉土6、腐葉土3、ピートモス1の混合土に緩効性肥料を用土1リットル当たり5グラム加えたものなどを用います。
- ③切り戻し：植え替え後そのままでは、丈が高くなりすぎるので、8月下旬に切り戻します。
- ④肥料：ポインセチアは、非常に肥料を好む植物です。緩効性肥料が効かなくなったら、10月までは、10日に1回ぐらいの割合で、1000倍に薄めた液体肥料を施します。
- ⑤短日条件：苞が色づくには、短日条件（1日のうち日の当たる時間が13時間以下）になって花芽ができればなりません。自然状態では秋以降になりますが、電灯の照明中等では花芽ができないので、日没から日の出までは暗い場所に置くなどの注意が必要です。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育状態	観賞		生育								観賞	
置き場/日光	室内			戸外の日当たり						室内		
水やり	乾いたら											
肥料	液体肥料（10日に1回）											
作業						植え替え		切り戻し				